

講座参加者の声

公民館では年間を通してさまざまな主催講座が行われています。今回は講座に参加された方々にいただいた感想をまとめました。参加していない方にも、講座参加者の声から学びを味わっていただくと幸いです。

2025年3月1日〈文化・芸術講座〉

アール・ブリュット、 その魅力と可能性を探る

～アートから学ぶ

社会における多様性～

講師：大内 かおる 郁



講師に大内郁さん（写真・東京都渋谷公園通りギャラリー学芸員）をお招きし、アール・ブリュットの成り立ちや歴史、さらに代表的な作家や作品について解説いただき、この概念が広く知れ渡ることの意義についてお話いただきました。

＊アール・ブリュット（Art Brut）とは？
さまざまな解釈がありますが、美術の専門教育を受けることなく、自己表現として独自に制作された作品を表します。



展覧会「あしたのおどろき」(2020)会場風景
画像提供：東京都渋谷公園通りギャラリー
撮影：柿島達郎

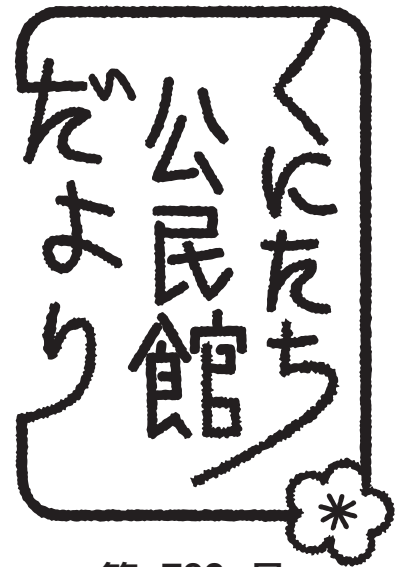
一方で、アール・ブリュットと商業主義の関係についても考えさせられました。市場に作品が流通することで、作家の生計を支える手段にもなります。また、作品をライセンス契約によって商品化し、社会に広める取り組みもあります。しかし、市場的な価値の有無で作

品が評価されたり、創作活動の純粋性が保たれるのかといった課題も顕在化します。さらに、持続的な制作活動を支援する存在も不可欠です。会場からも、現場の声や持続可能性のある支援の形など活発な意見交換が行われました。

講座を通じて、アール・ブリュットの持つ潜在的な可能性を改めて認識しました。講師の大内さんは、アール・ブリュットを従来の美術の枠を超え、しょうがいのある人や社会の周縁にいる人々の多様な表現を包含するものと定義しています。つまり、アール・ブリュットは文化芸術の枠を超え、誰もが包摂される社会を目指す道標となる可能性を秘めています。例えば、東京都渋谷公園通りギャラリーでは、ワークショップを通じて制作者と鑑賞者のつながりを促進し、アール・ブリュットの普及や作家の社会との関係性を模索しています。

講座担当者から

近隣市でもアール・ブリュットの作品展が行われており、その意義や社会にもたらす作用について皆さんと考えてみたいと思います。本講座では、その歴史や可能性について知ることができ、活発な質疑応答が交わされ、表現そして包摂的な社会について考える機会となりました。



第 783 号

2025年5月5日

(令和7年)

「くにたち公民館だより」

デジタルブック▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

アール・ブリュットの魅力と可能性

…包摂社会への道標として

森 恵明 けいめい

・この度の企画に際し参加した理由、私の祖父、重田英二が台北で「菊本百貨店」を設立してありました事もあり、よい機会だと思

参加者の講座アンケートから

※内容は抜粋・編集をしています。



第3回ゲストの新元久さん。新元さんは日本引き揚げ後、明治製菓に勤め、「きのこの山」などの商品開発をされました。

2025年1月25日～3月1日(全5回)〈一橋連携講座〉 日本統治期台湾文化史に見る台湾人の足跡 —1930年代の映画・音楽・弁士を読み解く—

講師に原口直希さん(東京大学大学院博士課程・DC1/一橋大学大学院言語社会研究科修士修了)、第3回には実際に日本統治期の台湾に生まれた「湾生」で、戦後引き揚げた新元久さんにお越しいただきました。



1895(明治28)年から1945(昭和20)年のおよそ50年間に、およぶ日本統治下で暮らす台湾人について、今回は1930年代の映画・音楽・弁士といった大衆文化などから読み解きました。統治と抵抗の単純な二項対立では片付けられない複雑さについて、当時の貴重な資料や映像を交えながら、ともに考える機会となりました。また、新元さんには14歳まで過ごした、実際の統治期の台湾における暮らしをお話いただきました。

6年ほど前には親戚一同で祖父の台北での「足跡を辿る」旅へ出かけてきましたが、台湾統治時代の背景が、よくわかりませんでしたので、今回の講座のお陰で理解できました。

定員も満席の状態でした。活気に溢れ、原口先生のわかりやすいお話に加え、映像を交えての講座でしたので、当時の台湾の様子がよくわかり、とても有意義な時間でした。

「台湾統治時代」の記憶を鮮明に覚えていらした新元さんのお話も興味深かったです。

..... 講座参加者による自主鑑賞会

映画『セデック・バレ』(監督:魏徳聖)

日本統治時代の台湾で起こった原住民セデック族による抗日蜂起「霧社事件」を描いた全2部の本作の自主鑑賞会を企画します。

と き: 5月11日(日)朝10時～昼1時
セデック・バレ第一部 太陽旗
5月24日(土)昼2時～夕5時
セデック・バレ第二部 虹の橋



ところ: 公民館 3階講座室

申込: フォームより

<https://forms.gle/E3r6vAq67jZnPhtg9>

講座担当者から

難しいテーマだと感じましたが、講師と参加者の熱意、豊富な資料、ゲストのお話を通じて、回を追うごとに学びが深まるのを感じました。これは連続講座ならではの良さだと思います。講座終了後、さらに学びたい参加者たちによる、映画の自主鑑賞会の企画にもつながりました。

・湾生(ご本人曰く絶滅危惧種と言われています)の生々しい当時の話を聞く事ができてとても楽しむことができました。

・台湾ナショナリズムの歴史的重みを強く感じました。最後に講座のテーマがみえました。「わかりやすい通説に対して本当かと考えてみる」とはとても重いことばでした。

2025年2月15日、2月22日

「民藝」への招待

—柳 宗悦が提唱した民藝の魅力—

座学と実技ワークショップの関連講座2つをシリーズで実施しました。第1回は思想家の柳宗悦の生涯と仕事と思想、民藝運動のひろがりを、第2回はバーナード・リーチや河井寛次郎ら民藝運動にかかわった作家たち、民藝の作品や見方を紹介いただきました。展示の舞台裏

毎月ポストに届く「公民館だより」をとても楽しみにしている一市民です。シンプルな紙面のなか

「暮らしのてしごととワークショップ」 「民藝への招待」に参加して

N.N

↓民藝への招待講師の森谷美保さん。(美術史家)



2025年1月26日、2月16日

暮らしのてしごととワークショップ

—はじめての木工と籐のカゴ編み—

なども伺い、「用の美」にふれる時間となりました。ワークショップ第1回には市内のシェア工房クミタテにて、木のスプーンづくりを、第2回には公民館にて、籐のカゴ編みを行いました。講師の丁寧な解説のもと、参加者同士で語らいながら「てしごと」を楽しみました。

↓カゴ編み講師の大江田秋さん。(カゴ作家/ DIY 工房クミタテ)



↑大工講師の武藤健さん。(木工作家/ DIY 工房クミタテ)

2025年2月16日〈公民館・中央図書館・郷土文化館 連携事業〉

ドキュメンタリー映画上映会

ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス

図書館の舞台裏を、巨匠フレデリック・ワイズマン監督が描くドキュメンタリー。知の集積を、いかに市民に還元していくか。予算確保のための会議、困難を抱える人への支援、さまざまな講演会やワークショップ……。現場の熱量とNYの空気が伝わってきます。

映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』
をくにたち公民館で観て

岩井としえ

ワイズマンはドキュメンタリー映画で有名な監督ですが、公民館だよりを見て、えっ、人が集まるかしらなんて心配しましたが、受付初日で定員オーバーですって？3時間25分の長尺映画、観るだけでも、大変なのに。

どこでも予算はきびしいようで



© 2017 EX LIBRIS Films LLC - All Rights Reserved
映画のワンシーン。

すね。運営会議のたびに、市・州の担当者や議員たちに「図書館」運営維持の必要性をいかに訴えるか、寄付をどこに働きかけるか、侃侃諤諤です。多く読まれる本を置くのか、良書を揃えるか、電子図書をもっと多く、紙の本は残さなくて良いのか、なかなか結論は出ません。

古い写真や地図の電子化の作業、音声入力、読む人、音をチェックする人、二人でやっている。次から次へ、イベントの準備、出庫返却の地道な作業。講演会、イベントには大物ミュージシャンや作家が出てきたのは、流石ニューヨーク。このドキュメンタリー、説明やナレーションが無く、話についていくのが大変なところもあります。余計なBGMも流れない。写される人たちの語りをみることに

なる。図書館のスタッフたちから情熱が伝わってくる。会議のスタッフ、それぞれよく語る。直接語る。読書会は口の字型に座り、お互い向き合って、語っていた。

最後の講演者が『プリーモ・レヴィ』について語っていて嬉しかった。去年いくつか読んでハマった本だったから。この映画に近づけた、と思っていたら、聞き手が、あなたは、音楽も好きで、といった時、バッハのゴルドベルクが流れタイトルロールとなった。曲が流れてきた時、この映画とお別れなんだと、急に寂しくなりました。もっと、観ていたいと思いました。

今回、特別企画とはいえ、この映画を公民館で観ることができて良かったです。この映画を選んだこと、くにたち公民館とニューヨーク公共図書館、近いなど思いました。椅子が新しくなって、思っていたより楽でした。

講座担当者から

昨年度から今年度にかけて社会教育施設3館が設立70年（公民館）・50年（中央図書館）・30年（郷土文化館）を迎えるにあたり、あらためて「社会教育」や「公共」とは何か考えたいと企画しました。ともに学び合う姿勢は公民館とも響き、たくさんのヒントがちりばめられていました。

に、楽しい企画や利用者の声など情報が充実していて、とても読みごたえがあります。毎号面白いイベントがありますが、この年始は「ものづくり」という大好きなテーマが。あまり器用ではないにも関わらず、わくわくする気持ちで勝り、参加してしまいました。

ワークショップでは、先生方の的確で丁寧な指導の下、木工では小刀、やすり掛け、オイル塗り……、カゴではひたすら編み作業……必死に取り組んでいるうちに、何とか完成。お手本からは程遠い出来栄ですが、愛着の感じられる作品となりました。

この機会をとおして、ものづくりのさまざまな良さが付きましました。一つは「没頭させてくれるところ」。自分の手を動かし、黙々と素材と向き合う時間は自然に無心にさせてくれるので、精神的にもよいと感じました。二つめは「ものを見る目が養われる」。自分なりの理想を追求しようと、職人の作品や使いやすいと感じる道



丁寧な手作業でカゴを作ります。

具をじっくり観察することを心掛けました。三つめは「つくれば、誰でも作家!」。いろいろ粗があっても自分の作品を見てみると、いつになるか不明の次なる作品への創作意欲も湧いてきます。

ものづくりのワークショップと同時に「民藝」の講座にも参加。これまで美術館や本などで何となく眺めて観ていた民藝作品でしたが、手仕事の歴史と先人たちの知恵や技の価値に気づき、たくさん書物を書いた柳宗悦の審美眼に感銘を受けました。専門的でありながら、興味深いエピソードがたくさん散りばめられた、森谷美保先生の解説は、「てしごと中」の私にとって、刺激あふれる興味深いお話でした。

シリーズ感のある2種類の講座に参加できたことで、豊かな気持ちになれたことをとてもうれしく思っております。公民館のみならず、また楽しい企画を期待しています。

講座担当者から

てしごとをとおして、ものと語らい、人と語らう。地域で出会い、つながり、世界が広がっていく。それらが古くからの日本の手わざと重ね合わせ体験できたら、と「てしごと」と「民藝」のシリーズ講座を企画しました。連綿と続く営みの豊かさを実感する機会となりました。

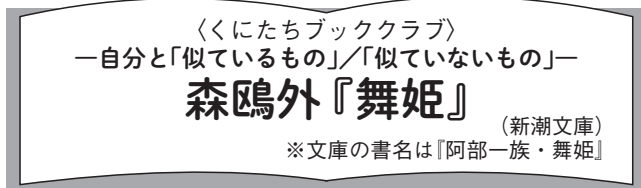


そんなグリーンラン

そんな時、狩猟のために学校を休んだ児童アサーを叱るつもりで家を訪れたことをきっかけに、この地で暮らす人々の生活の知恵や生き方に徐々に惹かれていくのです。

上映終了後、グリーンランドの研究者である高橋さんに、グリーンランドの文化や社会などについてお話を伺います。
※講師はオンライン中継でお話します。

電話またはホームページより



*詳しくはホームページをご確認ください。



*事前申し込み制となっています。必ず電話、窓口、ホームページのいずれかの方法にて事前にお申し込みください。
*日本語字幕付きの上映となります。ご了承ください。



(NPO 法人東京学芸大こども未来研究所)



ホームページよりお申し込みください。



<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/kurashi/shisetsu/3/11114.html>

— 7月分(ロビー 8月分) 会場調整会のお知らせ—

申込書のポスト投入期間	4月26日(土)～5月29日(木)
予約の重なりのある 団体の掲示開始日 (公民館HPにも掲載)	5月31日(土) ▶重なり状況 
会場調整会	6月7日(土)朝10時～ 会場：地下ホール

※会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。

会場申込の詳細はホームページをご確認
いただくか、公民館にお問い合わせくだ
さい。



▲申込方法詳細

★8月以降の予定

使用月 (ロビー)	申込書の ポスト投入期間	重なり団体 掲示日	会場調整会
8月(9月)	6月7日(土)～ 6月26日(木)	6月28日(土)	7月5日(土)
9月(10月)	7月5日(土)～ 7月24日(木)	7月26日(土)	8月2日(土)
10月(11月)	8月2日(土)～ 8月28日(木)	8月30日(土)	9月6日(土)
11月(12月)	9月6日(土)～ 9月25日(木)	9月27日(土)	10月4日(土)

★「申込書」を提出していない団体の予約方法

- ・2階事務室での受付…会場調整会当日の午後2時～
- ・電話での仮予約…会場調整会当日の午後3時～
- ※受付期間：午前9時～午後5時(月曜、祝日、年末年始を除く)

公民館70周年事業を ともに考える会

前号の4月号にて、国立市公民館が70周年を迎えること、また公民館として記念事業に取り組むことをご案内しました。

記念事業の大枠としては、①過去の公民館だよりを手がかりに公民館の歴史を学ぶ「公民館だよりを読むつどい」の継続開催、②70周年を迎える11月頃を中心に実施する講演やシンポジウム等のイベント事業、③国立市公民館70周年記念誌の作成・発行などに取り組む予定です。

それぞれの取り組みは、市民と一緒に取り組みたいと考えていますので、普段からサークル活動で公民館を利用したり、講座に参加したり、あるいは公民館(活動)に関心のある市民のみなさんと、取り組みについて一緒に話しあう場を設定しました。

助言者の辻浩さんにも、取り組みについて助言をいただきたいと思います。ぜひどなたでもお気軽にご参加ください。

助言者 辻 浩^{ゆたか} (元名古屋大学教授
・社会教育推進全国協議会委員長)

と き 5月27日(火) 夜6時～8時
ところ 公民館 3階講座室
申込先 5月8日(木) 朝9時～
電話またはホームページより



公民館運営審議会報告

3月25日(火) 第35期第5回定例会を開催。委員14名、館長、職員5名出席。傍聴人4名。
前回議事録確認
議事録修正あり。

報告事項

○館長人事の有無について館長より報告。今回は異動の内示無し。
○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会、担当委員より報告。

審議事項

○市長・教育長との懇談について、依頼文案と懇談の内容を検討。4月に懇談を予定。
○現在の公民館事業について、職員3名からそれぞれ「天体観測」「生活のための日本語講座」「中高生のための学習支援」について報告。その後、公運審委員からの質疑と意見交換。

○第4回定例会で職員より提案のあった公民館の利用要件に関する運用変更等について審議。
○4～6月のスケジュールについて検討。職員からの事業報告の続きを行うこと、公運審委員各々から調査研究したいテーマを募ることを確認した。

(木島)

公民館運営審議会報告

4月8日(火) 第35期第6回定例会を開催。委員14名、館長、職員4名出席。傍聴人3名。
前回議事録確認
議事録修正あり。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会、社会教育学習会担当委員より報告。
○館長より4月1日付で、転出1名の人事異動の報告。公民館に転出した職員の紹介。

審議事項

○市長・教育長との懇談会を4月18日(金)に開催決定。
○職員2名より、「作家から見つめる韓国現代文学講座」「平和・近現代史講座」についての報告。いずれも国立らしい事業と評価する意見多数。その上で、センシティブなテーマにおける中立性の担保、市民活動とのつながり、参加者同士の学び合いの工夫、職員の役割などについて質疑と意見交換。

○職員より、70周年記念事業として、公民館だよりを読むつどいやイベントの実施、記念誌やサインメッセージの作成などの計画について報告。
○委員長より、審議会で調査検討したいテーマについての調査票を配布。5月以降、回答内容をもとに話し合う予定。

次回5月13日(火) 夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(佐藤)

今月の公民館 (5月～6月)

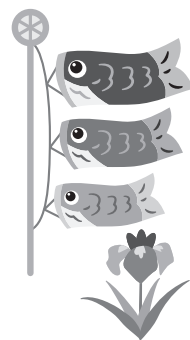
- 5月7日(水) 朝～ 生活のための日本語講座
 8日(木) 朝～ シルバー学習室
 8日(木) 夜～ くにたちブッククラブ 森鷗外『舞姫』
 10日(土) 朝～ しょうがいしゃ青年教室
 16日(金) 昼～ 古典への招待 『万葉集』を読む
 17日(土) 昼 図書室のつどい『しっぽう』
 22日(木) 朝～ 女性のライフデザイン
 24日(土) 昼～ からだであそぼう
 ～のびのびとうごくワークショップ～
 25日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
 『楽しい色水の世界 色水実験を楽しもう』
 シネボックス CINEVOX『裏窓』
 25日(日) 昼
 27日(火) 夕 公民館70周年企画
 「公民館70周年事業をともに考える会」
 6月7日(土) 昼
 「映画＆お話ー多文化共生講座」
 「北の果ての小さな村で」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。

公民館 ☎042(572) 5141



▲講座等の案内



ひろば

国立ピクブルボール体験会

ビルゲイツ、ディカプリオも愛している今を時めく新スポーツ。テニス・バドミントン・卓球の要素を併せ持ち、幅広い層がプレーできます。お気軽にお電話を！
 日時 主に月(水)日(土)に開催中！
 場所 FSXアリーナ(総合体育館)
 連絡先 富田090(5317) 2217

国立あひるグループ団員募集

ア・カペラの女声合唱団です。皆で声を出し心をひとつにして歌うことは身心を元気にしてくれます。未経験でも大丈夫。一緒に楽しみませんか？見学も大歓迎！
 日時 毎週金曜 昼1時～3時半
 場所 公民館 地下ホール
 連絡先 宮坂042(576) 3872

フットサルチーム「ソラーナ」

市内で活動中の男女エンジョイサークルです。10～60代まで幅広い年代で毎週汗を流しています。熟練指導者によるサポート有り。気軽に体験からでも御連絡下さい。
 日時 毎週日曜日 昼3時～6時
 場所 市内小学校体育館
 連絡先 磯080(3258) 6711

加害者としての戦争を語る会

関東学院大学名誉教授の林博史さんに、沖縄戦を加害の視点で、なぜ20万人が犠牲にならなければいけなかったのか、今までの研究成果をお聞きます。(無料)
 日時 5月6日(火) 昼1時半～
 場所 公民館 地下ホール
 連絡先 龍野090(1469) 1094

くにたちバロックアンサンブル

アマチュア弦楽合奏団
 ゴルドベルク4声のソナタ ヘレ
 ンダール作品3-6 ムファツト
 音楽の花束第2集 エルレバツハ
 序曲第5番より指揮浅原暢入場無料
 日時 5月11日(日) 夜7時すぎ
 場所 三鷹市芸術文化センター
 連絡先 北垣042(572) 5641

いーぜ「きりがみアート」

潤いの6月をきりがみアートしよう。感性豊かなひととき・個性豊かなオンラインワンのアート。未就学児も何歳でも。気に入った素材を集めて貼るだけ。予約不要
 日時 5月25日(日) 昼1時半～4時半
 場所 矢川プラス多目的ルーム(小)
 連絡先 山根090(2436) 8485

「いろは」無料書道講習

筆ペンで美文字にチャレンジ初心者対象。講師・池田聡翠。
 (申込) 5月22日～5月31日 左
 記連絡先へ 電話またはSMSで
 主催・書道サークル「いろは」
 日時 6月3日(火) 昼1時～
 場所 公民館3階の会場を予定
 連絡先 清水080(5033) 2328

「サークル訪問403」

『月刊社会教育』を

読む会

今回の取材は、私も参加している「月刊社会教育」を読む会(以下、「読む会」)だ。「月刊社会教育」(※旬報社)は、各地域の社会教育の理論や実践が研究者、社会教育関係職員、市民等によって綴られる1957年から続く月刊誌である。誌面からは、執筆者や読者が草の根で育んで来た民主的かつ自由な社会教育の世界を知ることができる。読者にとっては社会教育の羅針盤ともいえる存在だ。国立市以外にも、全国にたくさん「読む会」があるのも興味深い。

読後は、気になった点や疑問等を出し合い、公民館や社会教育について自由に語り合った。メンバーの参加動機は、「職員と市民が一緒に読んで話せるのは貴重な機会」「社会教育について学びたい」等いろいろだ。「読む会」には、読むことや話すことから始まる気づきが新たな世界との出会いにつながる社会教育の魅力がある。

公民館の閉架本棚には「月刊社会教育」が創刊号から並ぶ。色褪せた背表紙からは長い歴史と学びの蓄積が感じられる。「読む会」ではこのバックナンバーからの選書も行われている。

日時 2か月に1回
 夕6時～8時

場所 公民館 中集会室 他
 連絡先 入山 080(6091) 4660
 (文・写真 公民館だより編集研究委員 幸島 裕子)



「社会教育って何だろう」一緒に学びませんか？

※『月刊社会教育』は、2019年9月号より旬報社が発行し、それ以前は国土社が発行していた。